

第1回 日本漢字能力検定 試験問題

氏名

1 級

解答は、現代仮名遣いによるものとする。

解答は別紙(答案用紙)に書くこと。

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。(30)
1〜20は音読み、21〜30は訓読みである。

(二) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。(30)
2×15

(四) 次の1〜5の意味を的確に表す語を、左の□から選び、漢字で記せ。(10)
2×5

- 1 壁の掛け時計が鏗然と鳴った。
2 歩歩に足を止め瞻矚に違あらず。
3 午睡を謂いて攤飯と為す。
4 官を辞して粥文を生業とする。
5 天子の棺椁は七重とされた。
6 従容として易簣の時を迎える。
7 嫋娜たる麗人が歌いつつ舞う。
8 皇門より入り遠路に到る。
9 霎時にして事の重大なるを知った。
10 鵝鴨起ち赤幟奔る。
11 艱窘に耐えて節義を全うする。
12 柵葉の状は芭蕉の如し。
13 美麗姚冶なる姿に心を奪われた。
14 村に確春の音が響く。
15 岌嶷たる山嶺が聯互している。
16 百木黝藹として涼涼たり。
17 玉輦巷陌を通過し畢わんぬ。
18 百骸九竅の中に物あり。
19 悉くその質を串殺す。
20 懋懋然として相知るなし。
21 巧みに找し難場を凌ぐ。
22 知らないうちちに痲が落ちた。
23 藜の嫩葉を食用にする。
24 浜辺で漁網を結く。
25 粵に起ちて自ら之を見る。
26 桜の樹皮を縮ねて茶筒を作る。
27 霍かに消え失せて影も形もない。
28 痞えに悩む若き王子を演じた。
29 簡ぶは帝の心に在り。
30 法正しければ則ち民慤む。

- 1 ニベも無く断られた。
2 三大強国がテイジして互いに譲らない。
3 友人のヘンテコな格好に吹き出した。
4 傷口にバンソウコウを貼る。
5 貸し金のショウヒヨウ書類を保管する。
6 クルブシまで水に浸かって浅瀬を渡る。
7 こけし作りにロクロを使う。
8 フクイクたる香りが辺りに漂った。
9 セーターの袖口を丁寧にカガる。
10 人権をジユウリンする行為である。
11 両者はタイセキ的な考え方をしている。
12 ムラキな姪に翻弄される。
13 カツラを着けて殿様役を演じた。
14 邏卒がサーベルをハイタイする。
15 泰平の世に戦乱の種がハイタイする。

- (三) 次の傍線部分のカタカナを国字で記せ。(10)
2×5
1 コノシロを酢でしめる。
2 シンシで布の両端を刺し留める。
3 着物のユキを詰める。
4 葉液をミリリットル単位で量る。
5 シカと伝えたぞ。
(五) 次の四字熟語について、問1と問2に答えよ。(30)
問1
次の四字熟語の(1〜10)に入る適切な語を左の□から選び漢字二字で記せ。(20)
2×10
ア (1) 艶質 カ車載 (6)
イ (2) 明珠 キ肉山 (7)
ウ (3) 北暢 ク必求 (8)
エ (4) 非宝 ケ跼天 (9)
オ (5) 三浴 コ優游 (10)
問2
次の11〜15の解説・意味にあてはまるものを問1のア〜コの四字熟語から一つ選び、記号(ア〜コ)で記せ。(10)
2×5
11 相手を大切に想う心の表現。
12 利益を独占しようとする。
13 宴会の奢侈の甚だしいさま。
14 時間の貴重であること。
15 無実の人が嫌疑を受けるたとえ。

1級

解答欄を間違えないよう設問番号を確認してください。

氏名

(六) 次の熟字訓・当て字の読みを記せ。

- 1 瓊脂
- 2 蛸蚪
- 3 椿象
- 4 雀鷓
- 5 稻架
- 6 玉筋魚
- 7 九面芋
- 8 風信子
- 9 山毛櫨
- 10 没分曉漢

(10)

(八) 次の1～5の対義語、6～10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。□の中の語は一度だけ使うこと。

対義語

類義語

- |      |       |
|------|-------|
| 1 質儉 | 6 喊声  |
| 2 先人 | 7 蒼氓  |
| 3 興隆 | 8 揣摩  |
| 4 懈怠 | 9 流浪  |
| 5 駑駘 | 10 軍船 |

(20)

(九) 次の故事・成語・諺のカタカナの部分(20)を漢字で記せ。

- 1 ウドン 蕎麦より嚙の傍。
- 2 大は棟梁と為し、小はスイカクと為す。
- 3 ヒノエウマの年には災あり。
- 4 ウシヨウを飛ばす。
- 5 神明にオウドウなし。
- 6 ランジャの室に入る者はおのずから香ばし。
- 7 ナマリは国の手形。
- 8 猛虎の猶予するはホウタイの蝨を致すに若かず。
- 9 別れてはシンシヨウの闊かなる有り。
- 10 ランポウは荊棘に棲まず。

(20)

(七) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義にふさわしい訓読みを(送りがなに注意して)ひらがなで記せ。

- 〈例〉健勝……勝れる ↓ 

けんしょう	す
ぐ	
- ア 1 規候……………2 規う
  - イ 3 搏飯……………4 搏める
  - ウ 5 攢仄……………6 攢まる
  - エ 7 乖忤……………8 忤う
  - オ 9 焮鍼……………10 焮ぐ

(10)

(十) 文章中の傍線(1～10)のカタカナを漢字に直し、波線(ア～コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。

(十) 文章中の傍線(1～10)のカタカナを漢字に直し、波線(ア～コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。

(30)

**A** 想う山の紫色、藍靛色は細緻鮮麗、加うるに光沢サンゼン、特に一雨洗うが如く、新霽水に似たり、此の際に縹緲せる凝黛堆藍は、染め具を以て此くの如く調合せんとするも、庸凡の頭脳を以て到底為し得べからず、大地の彩色は山を得て始めて絢煥す。唐人、巖を「雲根」と呼ぶ、趣ある哉此の称や、雲、山より起こり、山、雲を得て愈美、益奇、一層々に大を添う。若しそれ雲、縷々として藕糸の如く、山の背腹を曳くや、**エン**として神女の羅裳を織るに似、**チヨウトンタ**陽会々之と映発して純紅火の如く、羅裳桃花色に染め了る。倏忽にして雲、来往迅速、**ホウハイ**として天を捲き百道狂馳、山、其の間より或いは湧き、或いは没し、或いは浮かび、或いは沈み、**ハンパン**として大海上の**トウシヨ**と化成す。**キヨウ**ウコクにして空気の運動静穏となるや、雲は漸く下降して山腹に繚繞し、其の上より絶頂の峭然孤尊するを観る。

(志賀重昂「日本風景論」より)

**B** 今しも赤坂の溜池に出ようと為る、極人通りの少ない、至って閑静な横町の、とある小縮まりとした家の、華奢な櫃子から顔を出した女がある。眉の濃い、画いた様な雁金額の額の狭い、色白の極皮膚の細密丸顔で、**マツゲ**の長い腫れぼったい様な一重眼縁の眼の中には、何となく愁いの色も見えるけれども、頤の辺りくつきりとして、血の色美しい唇の小さく締まった口尻には、得も云われぬ愛嬌が滴るばかりである、襟などの少し油に汚れた、荒い亀甲飛白の大島紬の一枚小袖に、大きな菊を処々に染め出した藤紫の半襟を見せ、黄八丈の書生羽織の下に、三升格子を柿色に染めた**チリメン**と黒縹子の昼夜帯を引っ掛けに結んで居る。

(永井荷風「薄衣」より)

**C** 彼の前には剝られた山の肉の断面が立っている。赤黒い母岩を貫いて走っている真っ白い筋のような、稍傾斜した硅石の脈の中には、オルフラマイトが、石炭のように黒く光っていた。**シンチュウウ**色の硫化鉄や金色の銅、緑の鮮やかな孔雀石も鏤んでいる。小さな剣を植えたような透明六方石のスカリは、所々に氷のような光を放っていた。カンテラの焰がゆらめくと鍾の内は仏壇のように美しく輝いた。

(宮嶋資夫「坑夫」より)